

私たちの検査と健康展～石川県の変遷～

◎河村 佳江¹⁾
金沢医科大学病院¹⁾

石川県の『検査と健康展』は、健康意識向上と臨床検査技師の認知度向上を目的として、商業施設で骨密度や血管年齢などの簡易的健康チェックを主体に開催してきた。買い物客を懸命にイベント会場に呼び込み、資料を配布し、健康チェックを実施するという昔ながらの『検査と健康展』のスタイルである。来場者からは「来年もここでやって欲しい」、「以前も参加して、これがきっかけで病院を受診した」などの声もあり、健康意識向上という観点では一定の効果はあったと思われるが、臨床検査技師の認知度向上という観点では効果に疑問があった。近年、日臨技の方針は若い世代に臨床検査技師を知ってもらう企画を求めている、石川県でも『検査と健康展』の新しいスタイルを模索しているというのが現状である。

2022年に日本医療企画主催の進学と体験フェアに参加したことが変化の1つの契機となった。進学と体験フェアは、中高生を対象として、様々な医療職の養成校と職能団体が進路相談や体験ブースを出展するイベントで、石川県臨床衛生検査技師会も顕微鏡観察（血液像）、超音波検査（果物ゼリー描出）などの検査体験ブースを出展した。検査体験ブースは好評で、これなら実施できるという手応えもあり、これ以降の『検査と健康展』では健康チェックにプラスして検査体験コーナーを設置するようにした。また、他職種と一緒にイベントに参加して感じたことは我々の宣伝力不足である。他職種ブースはのぼり旗を立て、大画面モニターを設置し、お揃いのスクラブでアピールするなど見せ方に工夫を凝らしていた。これを参考に、当技師会もスタッフベスト、のぼり旗、テーブルクロスを作成し、『検査と健康展』で臨床衛生検査技師会という名称を前面に出すように工夫した。少しずつ変化しているものの、現状は真のターゲットである中高生にアピールできていない、健康チェックの割合が多いなどが課題として残っている。今後の変更案として、高校へ出張『検査と健康展』、病院の検査室ラボツアー、養成校とのコラボ企画などの提案はあるが、実現するには越えなければならないハードルがある。今回、他県の皆様のご発表を参考にさせていただき、今後の石川県の『検査と健康展』を考えたい。

検査と健康展 inTOYAMA を担当して

◎辻田 由加利¹⁾
厚生連 滑川病院¹⁾

（一社）富山県臨床検査技師会（以下富臨技）では、臨床検査の正しい知識と普及・啓発を行い、国民の健康づくりや生活習慣病の早期発見への意識の高揚を図ることを目的として、検査と健康展 In TOYAMA を毎年 11 月に開催している。コロナ禍により数年は未開催であったが、5 類へ移行した直後は接触を控えた体験コーナーを考慮したイベント開催を行った。近年はコロナ禍以前と同様に活動し、多くの方に参加していただいている。体験コーナーは、血管年齢や骨年齢、認知症検査等があり、集客には欠かせないコーナーとなっている。参加者は、臨床検査技師の仕事の内容紹介やパネル展示にはあまり興味を持たない方がいることも否定できない。また目を向ける方の多くは高齢者である。高齢者は病院への通院が多いことから、臨床検査技師の認知はさほど低くはない。やはり、これからの若い世代への臨床検査技師を知っていただくことが重要である。

2024 年 12 月には日本臨床検査技師会（以下日臨技）は、各都道府県に検査と健康展に関する現状調査を行っている。検査と健康展は定着したことから、日臨技は小中高生など若い世代に臨床検査技師の認知度を広めることを目標にしている。また健康フェアのような企画ではなく、臨床検査技師の未来につながる内容、若い世代を中心とした皆様に臨床検査技師を知っていただく内容を盛り込んだ企画が提言された。今後の企画には十分な検討が必要であると感じた。

富山県は、臨床検査技師の養成学校はない。他県で学んだ人材を富山県での就業に繋げるには富山県の魅力の発信も重要であり、課題でもある。富臨技の会員数は 570 名前後である。イベントでの日臨技の助成も必須である。イベント開催の広報活動では、県内各高校と開催市内中学校へはチラシを配布しているが、小学生への活動は行っていない現状である。小中高生または学生の保護者に関心を持ってもらえるよう努力が必要になると思われる。開催場所の賃料や、体外診断用医薬品は薬事法の規制対象となり、企画ができない等様々な問題点があるが、日臨技の求めている「検査と健康展」の在り方、目指すものについて他県ではどのように対応しているのかを参考にしながら、富臨技ならではの在り方を検討していく必要がある。

私たちにできること

◎原 宜紀¹⁾JA 静岡厚生連 清水厚生病院¹⁾

【はじめに】静岡県は人口 355.6 万人（令和 5 年現在）、東・中・西部の 3 地区に分かれ、23 市 12 町で構成される。静臨技公益活動として東部地区は行政主催の社会福祉事業に出展、西部地区は地元医師会主催のイベントに出展していることから、「検査と健康展」は毎年中部地区が会場となる。

【活動内容】「検査と健康展」の事前広報は、イベント会場へのポスター掲示、イベント会場 HP へのイベント掲載、また開催地区となる中部地区医療施設に院内掲示用ポスターを配布し、施設内へ掲示協力を求めて集客を呼びかける。運営は近隣施設の医師はじめ理事を含む臨床検査技師、医療機器を取り扱う企業の協力を得て、総勢 30 名程度で行う。イベント内容は頸動脈エコー、体成分分析、顕微鏡（正立・実体）体験、血管可視化体験、血圧／血管機能測定、健康モニタリング測定、物忘れ相談プログラム体験（日臨技から借用）、医師相談コーナー、ピンクリボンコーナー、臨床検査技師の仕事紹介である。家族連れや買い物客で多く賑わう商業施設をイベント会場としており、例年 4 時間程度の開催時間で千人程度の集客が見込まれる。

【現状と課題】各ブースで検査の実体験を行い、検査説明や結果値に対する捉え方を説明でき、検査の必要性や面白さを体感できる良い機会となっている。しかし我々の職種をどこまで来場者に認知してもらえているか、また来場者の多くは家族連れや年配者のため、これからなり手となる若者に対して職種アピールがどれほどできているか、興味を持ってもらえているかは不明である。一方県内では、毎年企業主催の医療系展示会に静臨技も協力団体の一つとして参画。展示会では医療に携わる団体が一堂に会する。このイベントは大規模イベント会場において二日間行われ、医療に興味を持った家族連れやこれから進路決定していく学生が目的をもって来場するため、「検査と健康展」とは異なり、医療や職業に対する関心度が高い。

【まとめ】公益活動を通じて国民の皆様に、我が職種を認知して頂くことは大切なことである。しかし臨床検査技師という職種を更に情報提供していくべきターゲットは、主にこれから進路決定していく就学生である。そのためには、地元教育委員会や教育現場との連携を構築してガイダンスを行う機会を設けていくこと。それにより臨床検査技師という職種への認知度や進路決定していくうえでの選択肢が広がっていくのではないだろうか。

『検査と健康展』in 愛知 ～見て、聞いて、触って、臨床検査を身近な存在に～

◎和出 弘章¹⁾
トヨタ記念病院¹⁾

全国「検査と健康展」は一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（日臨技）が主唱となり、臨床検査に関する正しい知識の普及・啓発、国民の健康意識向上を目的として全国各地で開催されている。愛知県においても公益社団法人愛知県臨床検査技師会（愛臨技）で公益事業を担当している組織部が中心となり「臨床検査普及月間」である11月にあわせて商業施設ショッピングモールの催事スペースを借用し開催している。企画内容としては臨床検査の体験企画と健康チェック（無料検査）の2つを中心に構成し、体験企画では子ども向けの体験として、超音波診断装置を実際に操作し、ゼリーや寒天の観察、顕微鏡下での血液細胞観察や血管可視化装置による血管の観察、尿定性検査の試験紙を使用しジュースを検査、医療従事者の手指衛生指導（コロナ禍）、などを行い、お子さんと共に親御さんにも臨床検査について楽しみながら知っていただくことをねらいとしている。健康チェック（無料検査）では血管年齢測定や骨密度測定、嗅覚チェック（認知症）などを行い、臨床検査技師による結果説明とともに日常生活のなかでの生活習慣の改善アドバイスを行っている。各企画の参加者は80～100名、延べ450名程の来場者に毎年参加いただいている。当日の体験・検査実務スタッフには愛臨技会員に協力してもらい、毎年約25名の会員が参加している。日頃病院で採血・検査時に接している医療従事者と患者の関係ではなく、一般の方との触れ合いの場は、違った意味で緊張しながらではあるものの、参加者とのやりとりを楽しんでいただける有意義な機会であると感じている。

近年では商業施設においても、催事スペースの縮小化、会場費の高騰化などが進み、会場の選定に難渋している。また、商業スペース内での開催のため、微生物検査などの培地類の展示や血球試薬の使用が難しいこと、高校生から若年層世代の集客は見込めないため、体験企画も限られている。全国「検査と健康展」は技師会が主催となり単独開催での開催が求められているため、会員施設における病院単位での体験会の開催時には技師会所有の検査パネルなどの備品貸出のサポートのほか、県や市、企業、関連団体などが開催するイベントにも積極的に参加し、多くの方に臨床検査および臨床検査技師について知っていただくとともに国民の健康意識向上に繋げる事が重要であると考えます。

岐阜県での検査と健康展の現状と今後の展望

◎澤野 晴夫¹⁾一般財団法人 総合保健センター¹⁾

岐阜県での検査と健康展は、学術部の各部門からの企画を中心にショッピングモールにて実施している。例年の企画内容は頸動脈エコー・簡易貧血検査・血液細胞の観察・唾液アミラーゼのストレスチェック・疑似尿での尿検査・病理組織標本観察・献血についての啓発・物忘れチェック・手洗いチェック・遺伝子検査の説明等である。昨年は岐阜県が中央会場になり、例年の主な企画とともにエコー検査のシミュレーターを使用した体験や化学発光キットをもちいた生化学検査の体験、人体模型パズルを用いて臓器の位置説明と病理標本を交えた各がん細胞の説明、県内の技師養成学校2校の紹介や進路相談、メタボリックシンドロームについての講演を実施した。

また、検査と健康展とは別に、岐阜市・大垣市・高山市の市民健康まつりに参加し頸動脈エコー・物忘れチェック・骨密度測定・血管年齢等を実施し、健康チェックをする事での健康に対する啓発活動も実施してる。

日臨技の検査と健康展の目的は、「臨床検査に関する正しい知識の普及・啓発、国民の健康づくりや生活習慣病の早期発見への意識高揚を図ること、また、若い世代を中心に広く国民に臨床検査および臨床検査技師のことを知っていただくこと」を主としている。

昨年の中央会場の企画では、目的を意識した開催ができたと思うが、ショッピングモールでの検査と健康展ではやはり、健康チェックが目立たなければ集客が望めない部分があると感じられる。事前の広報活動や開催場所の検討も、効果的な検査と健康展にするためには必要な事と思われる。

日臨技より検査と健康展の在り方について、「健康フェアのような企画ではなく、臨床検査技師の未来に繋がる内容、小中高生などの若い世代を中心とした国民の皆様は臨床検査技師のことを知っていただく企画」を盛り込むことが提言された。このことから将来の進路を決める前の世代をメインターゲットとした企画を前面に出していく必要がある。そして、県内の技師養成学校と連携し、臨床検査技師になるために学ぶ内容や学校の紹介と、国家試験取得後の臨床検査技師の就職先や仕事の紹介を体系立てて紹介していく必要がある。従来の検査と健康展での開催方法にとらわれず、大学でのオープンキャンパスや進学フェアなどに連携し、小中高生やその保護者向けに臨床検査技師をアピールしていく事も新たな方法と考える。

悩める検査と健康展 ～まずは一歩前へ～

◎林 豊¹⁾社会福祉法人 恩賜財団 済生会 松阪総合病院¹⁾

三重県において『検査と健康展』は、毎年県の北勢地区を中心に実施し、多くの来場者に無料の検査などを行うイベントとして開催している。検査項目は、骨密度測定、血管年齢測定、認知症プログラム、頸動脈エコー、簡易ヘモグロビン測定などを行い、希望者には検査説明コーナーを設けて詳しく検査内容の説明も行っている。スタッフは三臨技会員だけでなく臨床検査技師養成校の学生にも参加してもらい、養成学校の紹介や顕微鏡を使った体験コーナーを設置している。また別会場で臨床検査技師に関する講演会を行い、技師による臨床検査技師のお仕事紹介や健診の重要性、さらに学生による臨床検査技師を目指した自分の将来や希望を語る講演も行っている。参加者は約150名程度で、多くの方にすべての検査を実施することが出来ており、このイベントを通して臨床検査の重要性と健康に対する意識の向上が得られていると思われる。また背中に『わたしたちは臨床検査技師』とプリントされたポロシャツを作成し、臨床検査技師の知名度アップにも貢献している。

だが大きな課題がある。このイベントは臨床検査の正しい知識の普及や国民の健康づくり、生活習慣病の早期発見への意識の高揚を図る事は一定程度出来ていると思われる。しかし、本当に国民の皆様に臨床検査技師という職業を知ってもらおうイベントになっているのかと疑問に感じる。特に今後の臨床検査技師の未来を担う小中高生などの若い世代にアピールがほとんど出来ていないのが現状である。無料検査はイベント開始時刻前から長蛇の列が出来るほど人気の企画であるが比較的高齢の方が多く、若い世代の参加はほぼ認められない。しかし集客には欠かせない企画となっており、これらをなくして臨床検査技師だけのイベントをして果たして人が集まるのだろうか？他の医療職との連携を図った方がいいのか？集客のため商業施設を借りるとなると予算の問題もあり規模が小さくならないか？小中高生を対象にするのなら夏休みなどを利用した方がいいのではないかな？

悩みは尽きない・・・

ただ求められているものがある以上は立ち止まる事は出来ない。他県の皆様の意見も参考に試行錯誤をしながら三臨技として新しい『検査と健康展』にステップアップしたいと考える。